

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画策定の背景

介護保険制度は、介護が必要になった者を社会全体で支える仕組みとして、平成12年（2000年）4月から開始されました。

制度の施行当時には約900万人だった75歳以上の後期高齢者人口は、現在約1,400万人に増加しており、さらに団塊の世代が後期高齢者となる平成37年（2025年）には2,000万人を超えることが見込まれています。

また、特に都市部を中心として後期高齢者数が増加し、単身又は夫婦のみの高齢者世帯や認知症の方が増加することも見込まれており、現在と同じ仕組みで介護サービスを提供し続けることは、近い将来に難しくなります。

介護保険制度を持続可能なものとするためには、まずは、限りある社会資源を効率的・効果的に活用して介護サービスを確保する方法を考えなければなりません。

介護を必要とする高齢者が増加する一方で、介護する側の人口は減少していくため、今後は、元気な高齢者の方にも、ボランティアなどを通して積極的に地域の介護に参加してもらい、ご自身の介護予防を図るとともに不足する介護人材を補っていただくなど、効果的な仕組みをつくりあげることが大切です。

また、将来的なサービス提供を効率化するためには、本町のように山間部の独立した集落が多い地域では、居住地の集中化を推進している自治体もありますが、まちづくりの計画そのものを、総合的に議論する必要があるため、本計画の策定にあたっては、現に介護が必要な方が利用する施設等の整備についてのみ検討しています。

介護需要が急激に増加する平成37年に向けて、介護サービスのみならず、介護予防、医療、住まい、自立した日常生活の支援を包括的に確保するための「地域包括ケアシステム」を、それぞれの地域の高齢化の状況や地域資源などの実情に応じて構築していき、平成37年度以降にも安心できるサービスを提供できるように備えていかなければなりません。

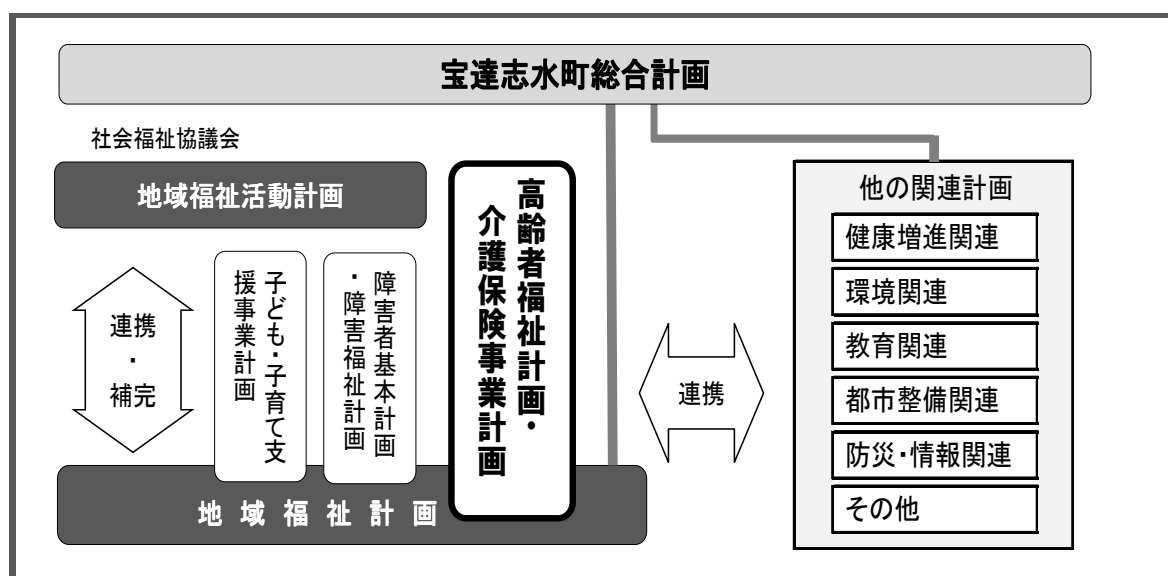
このため、第7期計画の策定においては、平成37年度（及び平成32年度）の介護需要や介護保険料についても推計を行い公表することとされています。

資料：「介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針」を基に加筆

2 計画の位置付け

本計画は、介護保険法第117条に基づく「介護保険事業計画」と、老人福祉法第20条の8に基づく「高齢者福祉計画」を一体的に策定するものです。

また、宝達志水町総合計画（計画期間：平成19～31年度）を上位計画としており、総合計画で定める目標を達成するために必要な町の高齢者福祉施策の全体的な方針を示すための計画として位置づけられます。

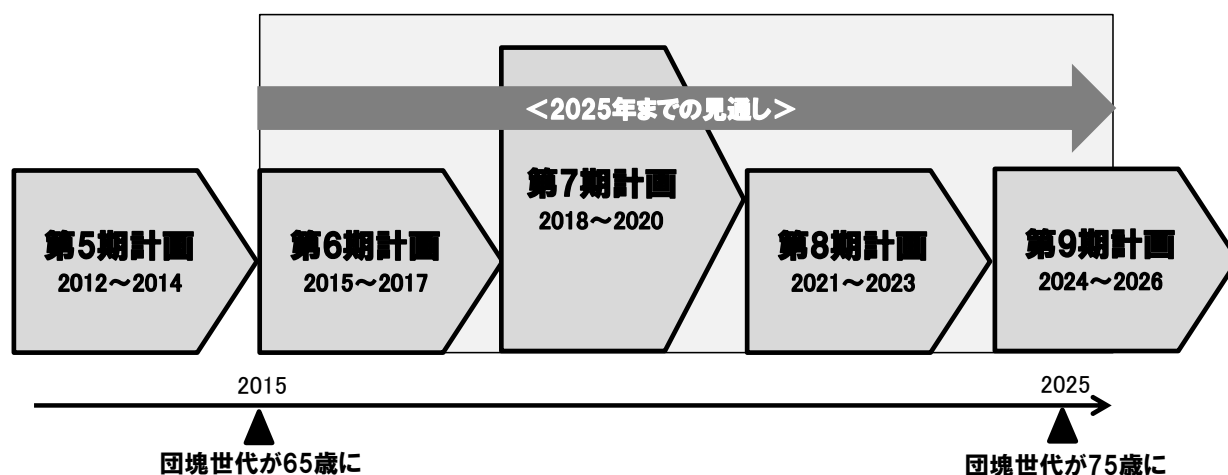


3 計画の期間

本計画は、平成30年度から平成32年度までの3年間を計画期間とします。

また、平成37年度（2025年度）までの介護需要を推計し、中長期的な視点から、本町の介護需要にあった地域包括ケアシステムを構築していくために、この3年間で実施すべき施策の方針を示します。

資料：全国介護保険担当課長会議

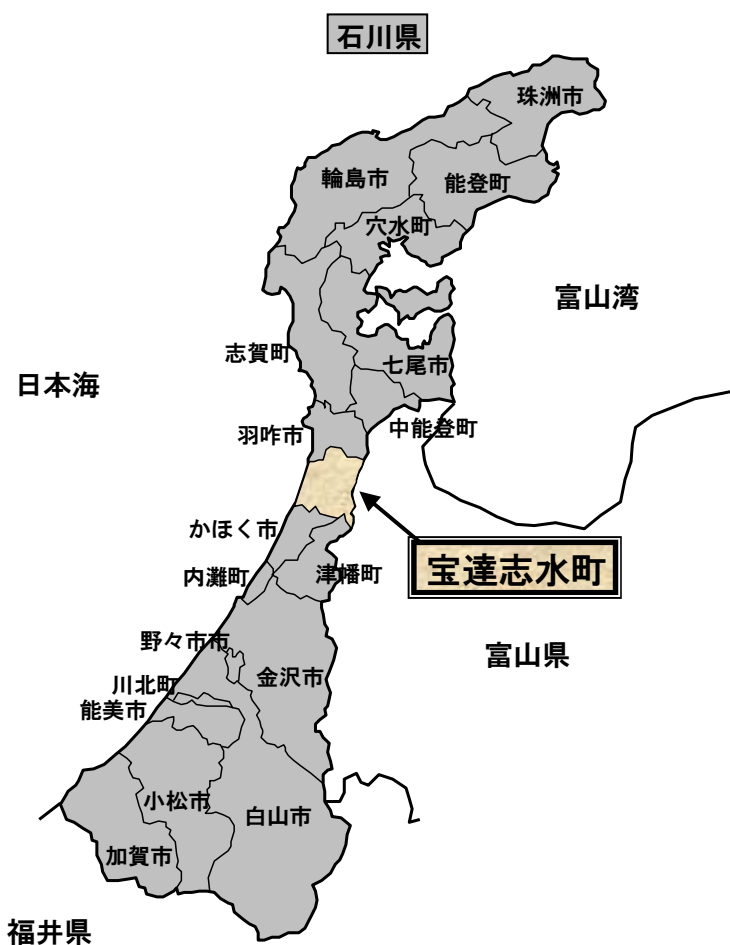


第2章 町の現況

1 位置、地勢

宝達志水町は、平成17年3月1日に志雄町と押水町の2町の合併により誕生した町で、石川県のほぼ中央に位置し、北は羽咋市、南はかほく市と津幡町、西は日本海、東は富山県氷見市と高岡市に接しています。

町の東部には宝達山丘陵地が連なり、中央部は子浦川、長者川、相見川、宝達川、前田川流域沿いに扇状地が広がり、西部は日本海沿いに砂丘地が連なる、山と川と海に囲まれた自然豊かなまちです。



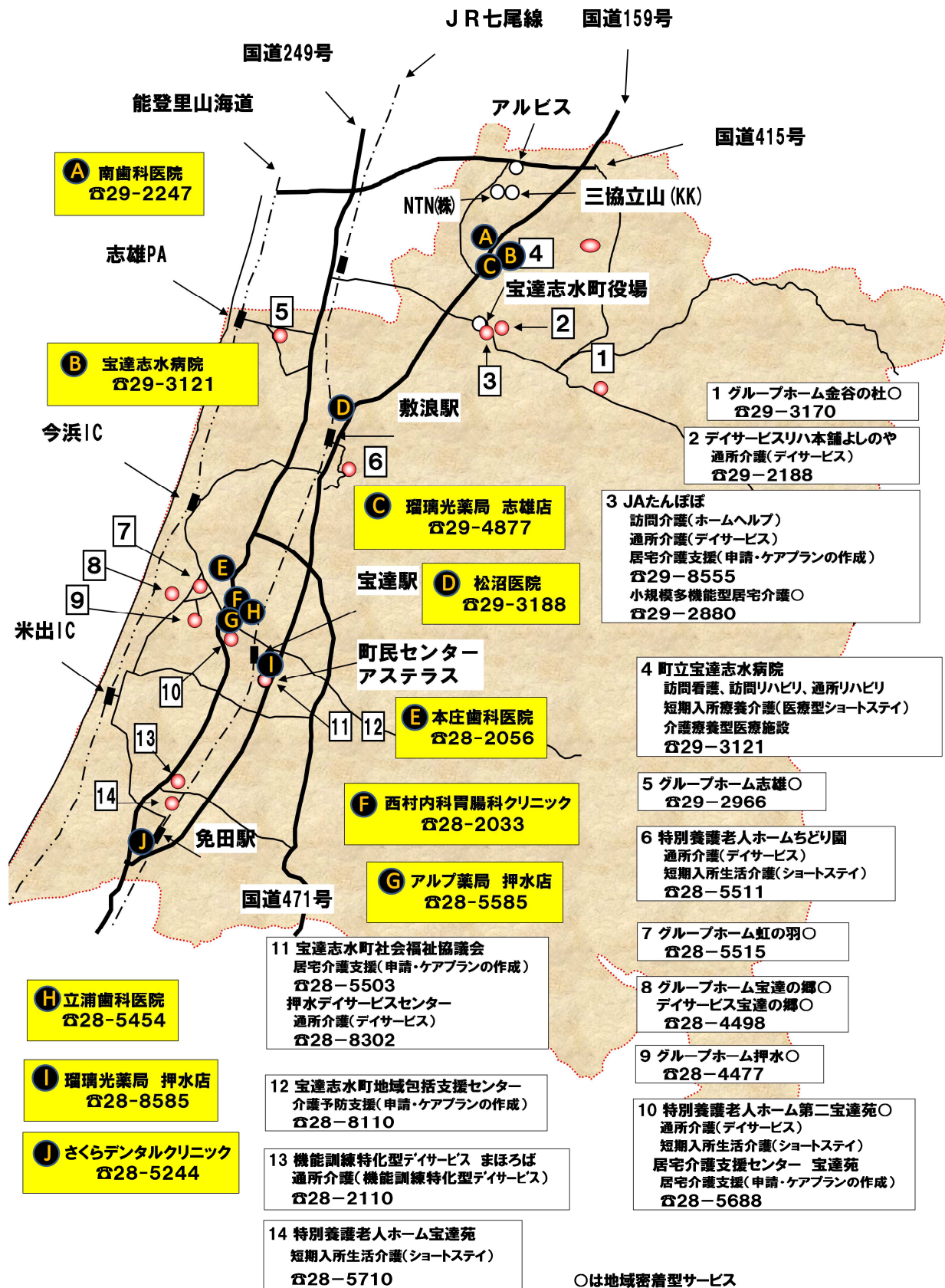
2 日常生活圏域の設定

日常生活圏域とは、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護サービスを提供する事業所の状況などからサービスの提供区域を必要に応じて設定するものです。

本町では、これまでの計画において、町全体を1つの日常生活圏域としてとらえサービス提供環境を整備してきました。本計画においても、引き続き町全体を1つの日常生活圏域としてとらえ、地域の介護サービスの確保を図ります。

宝達志水町医療機関・介護保険サービス事業所マップ

平成29年5月現在



3 人口、高齢者人口、介護認定者の状況

(1) 総人口及び高齢者（65歳・75歳・85歳以上）人口の推移

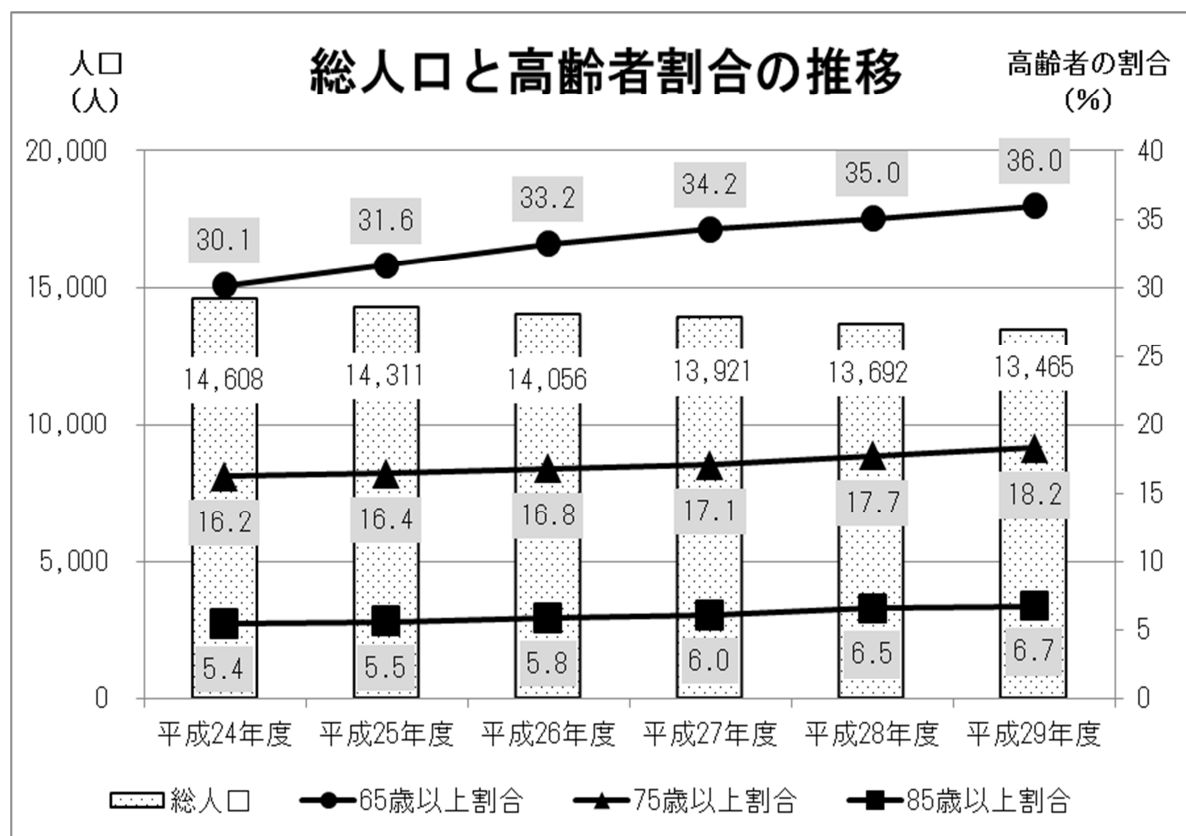
宝達志水町の平成29年10月1日現在の住民基本台帳人口は13,465人で、5年前と比較して1,143人（7.8%）減少しています。

一方で、高齢者の人口は、5年前と比較して、65歳以上人口で444人（10.1%）、75歳以上人口で86人（3.6%）、85歳以上人口で111人（14.0%）の増加がみられます。

■人口、高齢者人口及び高齢者の割合の推移（各年10月1日現在）（単位：人、%）

	人口				高齢者の割合		
	総人口	65歳以上	75歳以上	85歳以上	65歳以上	75歳以上	85歳以上
平成24年度	14,608	4,399	2,370	792	30.1%	16.2%	5.4%
平成25年度	14,311	4,522	2,348	794	31.6%	16.4%	5.5%
平成26年度	14,056	4,664	2,358	817	33.2%	16.8%	5.8%
平成27年度	13,921	4,766	2,374	840	34.2%	17.1%	6.0%
平成28年度	13,692	4,799	2,420	891	35.0%	17.7%	6.5%
平成29年度	13,465	4,843	2,456	903	36.0%	18.2%	6.7%

資料：住民基本台帳



(2) 被保険者数の推移

平成 29 年 10 月 1 日現在の宝達志水町の被保険者数は 9,191 人で、このうち第 1 号被保険者数は 4,843 人 (52.7%)、第 2 号被保険者数は 4,348 人 (47.3%) となっており、第 1 号被保険者数の割合は、平成 24 年度から大きく増加しています。

また、第 1 号被保険者のうち、前期高齢者は 2,382 人 (49.2%)、後期高齢者は 2,461 人 (50.8%) となっています。

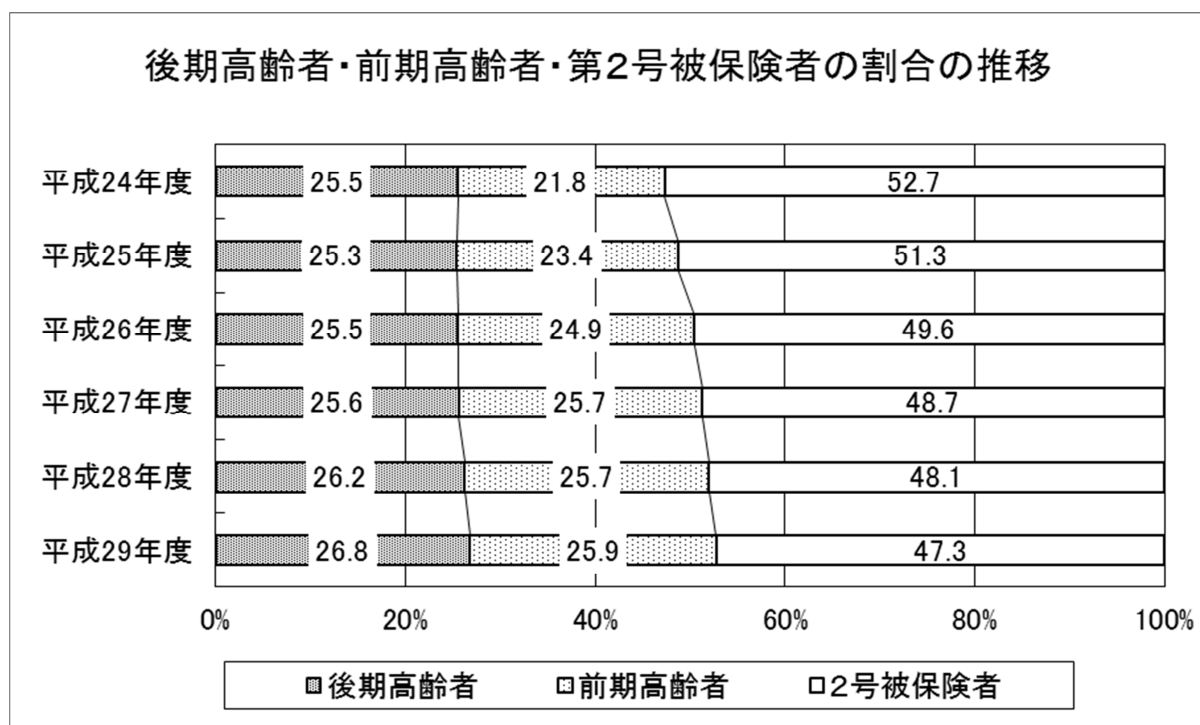
後期高齢者の方々の数は年々増加しており、また、第 1 号被保険者に占める前期高齢者の割合も、団塊の世代の方々が 65 歳に到達したことによって平成 24 年度から平成 27 年度までは増加していましたが、近年はほぼ横ばい状態となっています。

■ 被保険者数の推移 (各年 10 月 1 日現在)

(単位：人)

	第 1 号被保険者（65 歳以上）					第 2 号 被保険者 (40～64 歳)	被保険者 合計
	前期高齢者		後期高齢者				
平成 24 年度	4,394	2,025	46.1%	2,369	53.9%	4,900	9,294
平成 25 年度	4,521	2,171	48.0%	2,350	52.0%	4,758	9,279
平成 26 年度	4,663	2,302	49.4%	2,361	50.6%	4,587	9,250
平成 27 年度	4,757	2,384	50.1%	2,373	49.9%	4,520	9,277
平成 28 年度	4,795	2,375	49.5%	2,420	50.5%	4,440	9,235
平成 29 年度	4,843	2,382	49.2%	2,461	50.8%	4,348	9,191

資料：第 1 号被保険者数は介護保険事業報告、第 2 号被保険者数は住民基本台帳



(3) 介護度別の要介護認定者数の推移

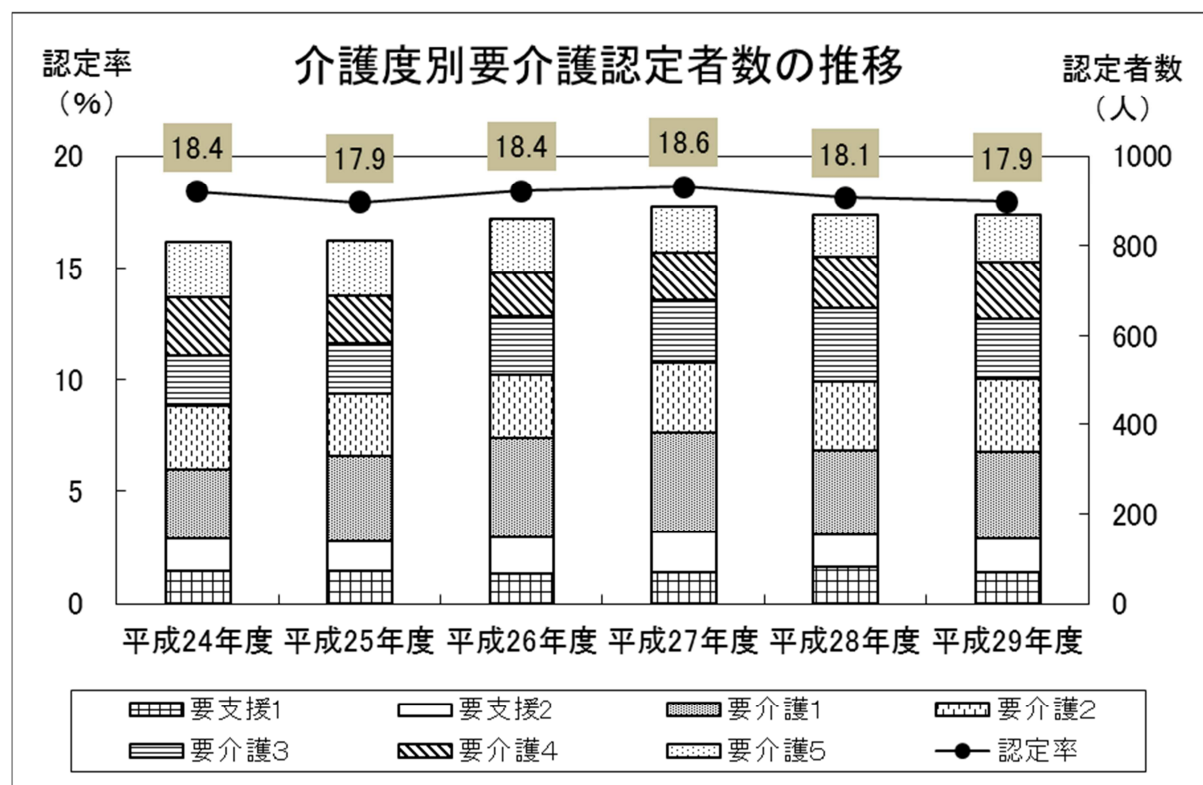
平成 29 年 10 月 1 日現在の宝達志水町の要介護認定者数は 869 人で、過去 5 年間で 60 人増加しています。

また、平成 29 年 10 月 1 日現在の要介護認定率（認定者数が第 1 号被保険者数に占める割合）は 17.9%で、分母となる 65 歳以上人口が増加したことで、平成 25 年度に一時的に減少がみられましたが、認定者数の増加に伴い上昇し、近年はほぼ横ばい状態となっています。

■ 介護度別要介護認定者数の推移（各年 10 月 1 日現在）（単位：人）

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
第 1 号被保険者数	4,394	4,521	4,663	4,757	4,795	4,843
要介護認定者数	809	811	860	886	869	869
要支援 1	73	73	65	70	81	70
要支援 2	72	64	81	89	71	75
要介護 1	151	190	223	221	186	192
要介護 2	145	140	142	157	156	164
要介護 3	115	116	131	142	168	137
要介護 4	129	106	98	104	113	125
要介護 5	120	122	124	103	94	106
要介護認定率	18.4	17.9	18.4	18.6	18.1	17.9

資料：介護保険事業報告



(4) 要介護認定申請の原因となった疾病の構成

平成 28 年度の要介護認定申請（新規・変更・更新）の受付件数は 836 件で、前年度から 6 件の減少が見られました。これは、要介護認定制度の改正により認定の期間が延長され、更新申請が減少したことによるものです。

要介護認定申請時に提出された主治医意見書に記載された、生活機能の低下の直接の原因となっている疾病を集計すると、男女ともに 1 位は認知症、2 位は脳血管疾患となっており、この 2 つの疾病で全体の半数近くを占めています。これらの疾病の予防を図ることが、介護の予防にもつながると考えられます。

■申請者の年齢構成 (単位：人)

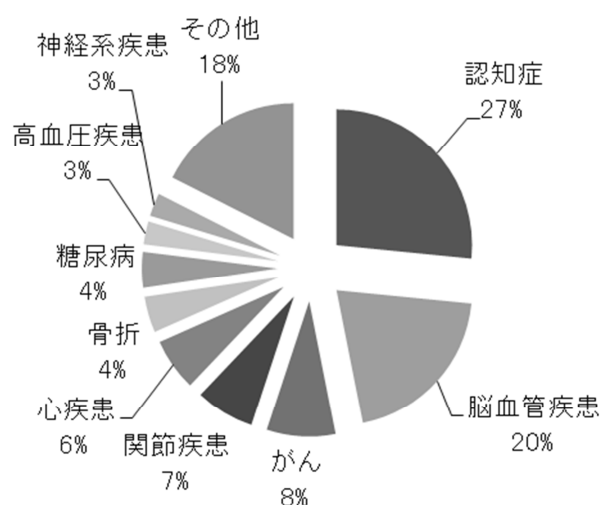
年齢	男性	女性	計
～64 歳	11	6	17
65～74 歳	40	36	76
75～84 歳	108	191	299
85～94 歳	88	289	377
95 歳～	9	58	67
計	256	580	836

■申請原因となった疾病 (単位：人)

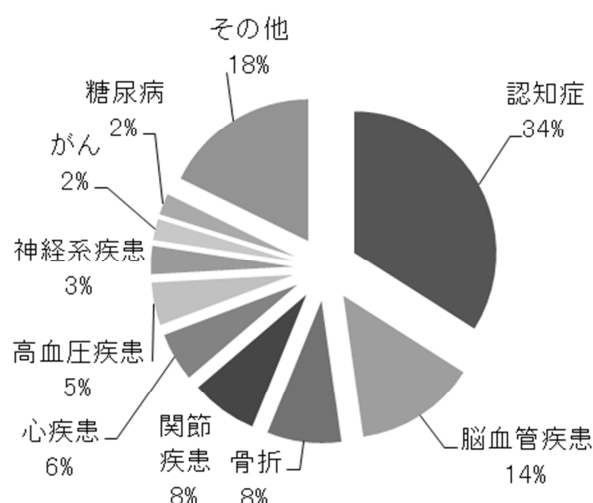
疾病名	男性	女性	計
認知症	68	197	265
脳血管疾患	52	80	132
関節疾患	18	44	62
骨折	11	49	60
心疾患	16	32	48
高血圧疾患	7	28	35
がん	21	14	35
神経系疾患	7	19	26
糖尿病	11	14	25
その他	45	103	148
計	256	580	836

資料：健康福祉課 介護保険係

申請の原因となった疾病構成
平成28年度【男性】



申請の原因となった疾病構成
平成28年度【女性】



(5) 各調査から見えてきた課題と対策

1) 在宅介護実態調査 調査分析の視点は ア、在宅生活の継続

イ、介護者不安の軽減

調査期間：H28年9月～H29年5月

介護保険更新申請と変更申請の方 204人を対象に聞き取り調査。

対象者の内訳	要支援1・2	59人
	要介護1・2	104人
	要介護3以上	41人

①	在宅介護をオープンにし、訪問介護・訪問看護等を利用して、介護者の体力不足や勤めで時間が取れない事を補っているケースは、入所検討時期が遅い。
②	訪問看護・介護の利用回数が多いケースでは、在宅介護の限界点は高く、訪問系サービス利用しないケースでは介護者一人が負担を負うので限界点が低く、入所検討時期が早い。
③	介護者が不安を感じるのは、「排泄の介護」「認知症状の対応」「医療的な介護」。
④	通所介護や短期入所で、介護者が自分の時間を確保し、介護負担や介護不安が軽減しているケースは、入所検討時期が遅い。
⑤	就労している介護者77人中、約6割が「問題はあるが何とか続けている」、2割が「続けていくのはかなり難しい」と考えている。「労働時間の短縮、休暇等」何らかの調整を行っている介護者は4～7割だが、職場環境が入所検討時期を左右することもある。

【分 析】 介護者の負担・不安を軽減し、在宅生活を継続していくためには、
訪問系・通所系・短期入所をバランスよく使える環境整備が必要。

【対 策】 ○介護者への支援：介護者によりそう医療・介護専門職
○介護者会同士のピアカウンセリング、勉強し合う場設定

○医療・介護専門職の連携・介護サービスの基盤整備・質の向上

排泄の介護には訪問介護、認知症の介護には通所介護等、医学的な介護には医療と訪問看護、また短期入所、レスパイト入院等を随時とりいれ、介護者の限界点を低くできるように支援していく。
(医療・介護サービス事業者情報は医療と介護のガイドブック参照)

2) 地域の会議からの課題・・・住民・高齢者のニーズ

〈区長・民生委員から地域の課題〉

- ① 独居・高齢世帯、認知症高齢者の増加
高齢者の買い物が不便（免許返納・移動販売の減少・コミュニティバス等不便）
- ② 地域に集える場所・機会（地域のサロン・絆を深める催し）の減少
世話役の減少、男性の参加が少ない
- ③ 高齢者宅の除草・除雪の担い手不足
- ④ 単身男性で孤立している方への対応

〈ケアマネ研修会から高齢者の課題〉

- ①活用できる交通手段が少ない。
 - ・ コミュニティバス（乗降介助者の添乗なし）、
デマンドタクシー（500 円高い）
 - ・ 地域のサロンが近くで開催していても歩行困難な為行けない。
- ②生活支援サービスを充実させてほしい。
 - ・ 自宅入浴の不安がある。銭湯を利用しやすく（送迎付き）
 - ・ ゴミ捨て場が離れている。分別が困難。
 - ・ 介護保険のヘルパーが対応できない箇所の掃除をしてほしい。
 - ・ 地域での交流の場が不足。認知症高齢者の地域での見守り
（特に若い世代に）
 - ・ 冬場の雪すかしや灯油の管理が困難
 - ・ 山間部のお弁当の配達

3)生活支援アンケート集計結果(抜粋)

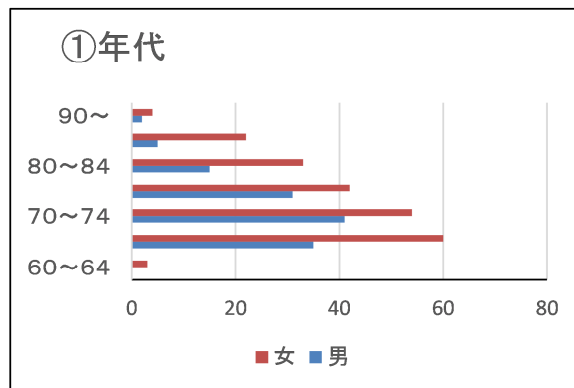
○対象者:65歳以上(要介護1～5を除く)4145人から無作為抽出した665人

○調査実施期間:H29年6月15日～7月31日

○有効回答数:349人

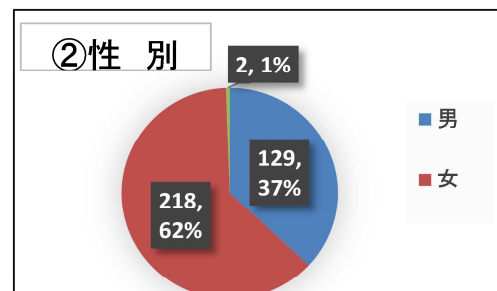
①回答者の年代

年代	男	女	合計
60～64	0	3	3
65～69	35	60	95
70～74	41	54	95
75～79	31	42	73
80～84	15	33	48
85～89	5	22	27
90～	2	4	6
合計	129	218	347



②回答者の性別

男	129
女	218
無回答	2
回答総数	349

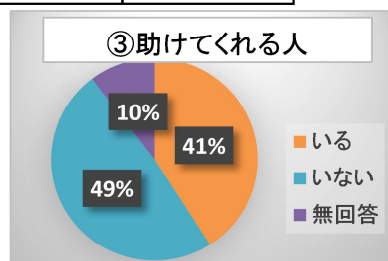


③一人暮らしになり、体が不自由になった時にゴミ出しや買い物を助けてくれる人がいますか？

いる	143
いない	170
無回答	36
計	349

	男性	女性
助けてくれる人がある	44/129人	99/218人
41%(143人)		

回答者の41%は「助けてくれる人がある」、内訳は男44人 女99人。

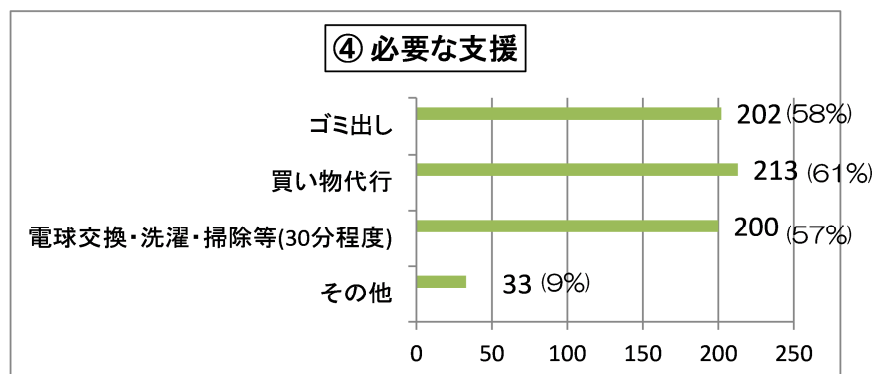


	男性	女性
助けてくれる人いない	67/129人	103/218人
49%(170人)		

回答者の約半数が身近に助けを求める事が困難な方でした。

④一人暮らしになり、体が不自由になった時にどのような支援が必要だと思いますか？

支援内容	人数
ゴミ出し	202
買い物代行	213
電球交換・洗濯・掃除等(30分程度)	200
その他	33



その他の内容	回答数
病院・通院介助	7
家事・補修・買い物	4
草むしり	7
食事・炊事	7
介護身体	1
経済援助・オムツ券	1
除雪	1
話し相手	2
観光のための送迎	1
美容院	1
ペットの世話	1
合計	33

4) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査〔3〕生活支援アンケート同時実施〕

○調査目的：介護保険計画の策定にあたり、介護予防に焦点を当てたニーズ調査を行い、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況等を把握し、効果的な介護予防施策の立案と効果の評価を行うため。

○対象者：65才以上（要介護1～5を除く）4,145人から無作為抽出した665人

○調査実施期間：H29年6月15日～7月31日

○有効回答数：348人（対象者の8.4%）

○アンケート結果：別添3参照

【結果および課題】

<家族構成・現在の暮らしについて>

一人暮らし高齢者は46人(13.2%) * 町全体では推計547人

- ・今後支援が必要と思われる一人暮らし高齢者および65歳以上の夫婦のみ世帯は52%と多い。

<からだを動かすことについて>

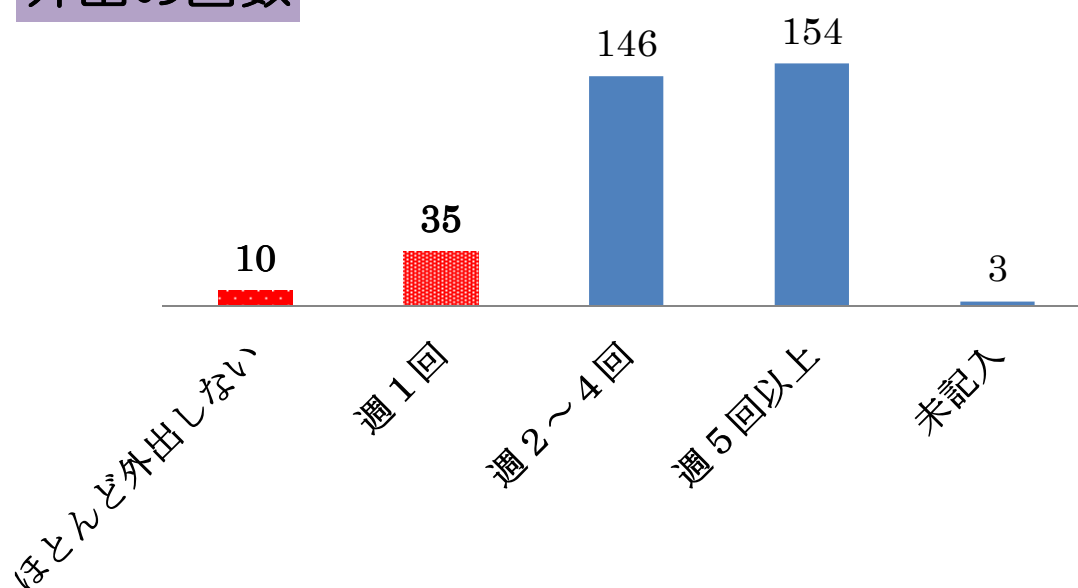
- ・何度も転倒している人は38人(11%)。* 推計452人

転倒に対しとても不安に思っている人は42人(12%) * 推計500人

- ・外出の回数が週1回以下の人が45人(13%)。* 推計525人

また昨年比で外出が減っている人は61人(18%)。* 推計726人 閉じこもり傾向の人が増加

外出の回数



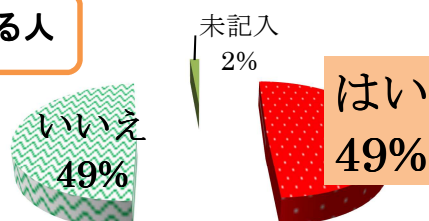
<食べることについて>

- ・食事を誰かとともにする機会がない人は 24 人 (7%)。* 推計 286 人
孤食の課題あり。

<毎日の生活について>

- ・もの忘れが多いと感じている人は 172 人 (49%) * 推計 2,047 人
半数の人に認知症予防の課題

もの忘れが多いと感じている人



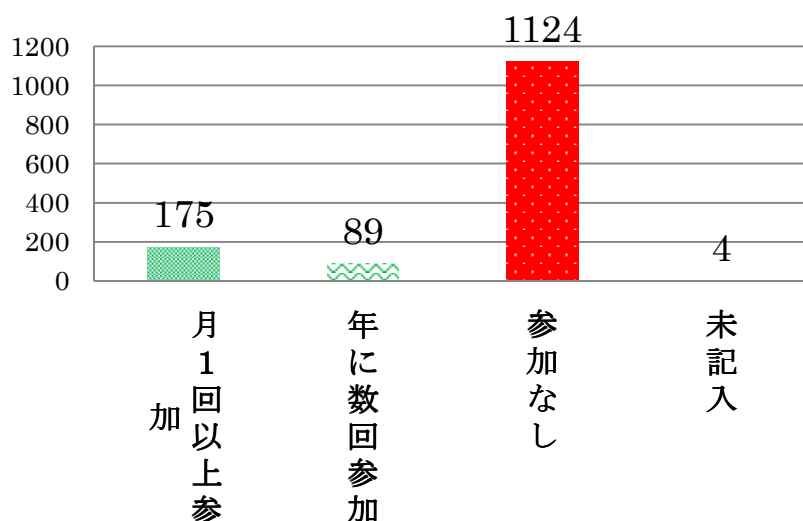
- ・自分で買い物ができない人 17 人 (5%) * 推計 202 人
自分で食事の用意ができない人 29 人 (9%) * 推計 345 人。
毎日の生活になんらかの支援が必要。

<地域での活動について>

- ・年に数回以上、サロンや趣味、教養サークルなどに参加している人は述べ 268 人 (19%)
* 推計 3,189 人 複数回答であるため、実際には 4 人に 1 人程度と推計される

地域での活動に参加する人が少ない現状。

- ・健康づくりや趣味のグループ活動に、参加していない人は 1,124 人 (81%)、
* 推計 13,376 人



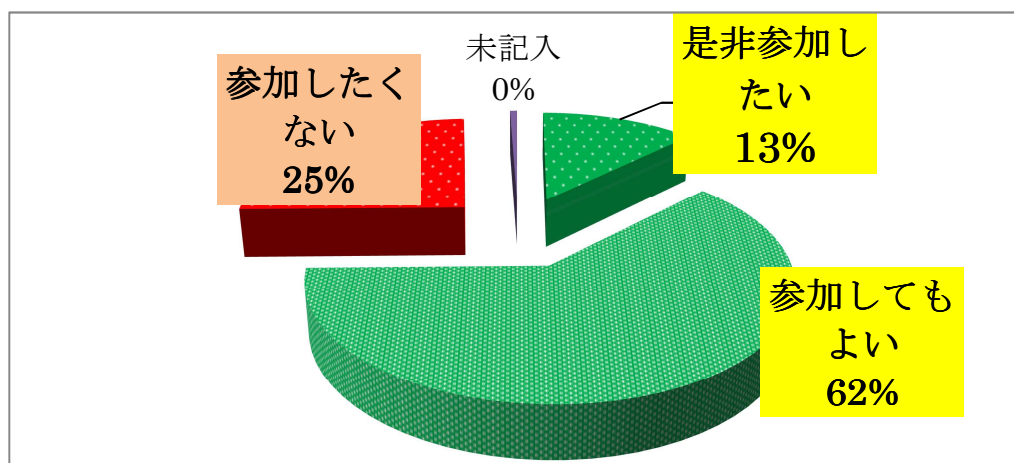
地域住民の意識やこれからの支援体制に課題あり。

<健康について>

- ・現在の健康状態が、とてもよい・まあよい答えた人は 269 人 (77.3%) * 推計 3201 人
一方、よくない・あまりよくない人は 76 人 (21.8%) * 推計 904 人
- ・現在どの程度幸せなのかについては、7~10 点 (まあまあ幸せ・幸せ) の人は 231 人 (66.4%)
5~6 点 (ふつう) の人は 96 人 (27.6%)
4~0 点 (あまり幸せでない・不幸せ) の人は 19 人 (5.5%)
* 推計 226 人の人が何らかの理由であまり幸せでないと感じている。

<介護予防教室について>

- ・歩いて行ける距離で、運動などの集いに参加したいと考えている人は、260 人 (75%)
参加したくない人は 86 人 (25%)
- 4 人中 3 人の人が介護予防教室などへの参加を希望している。



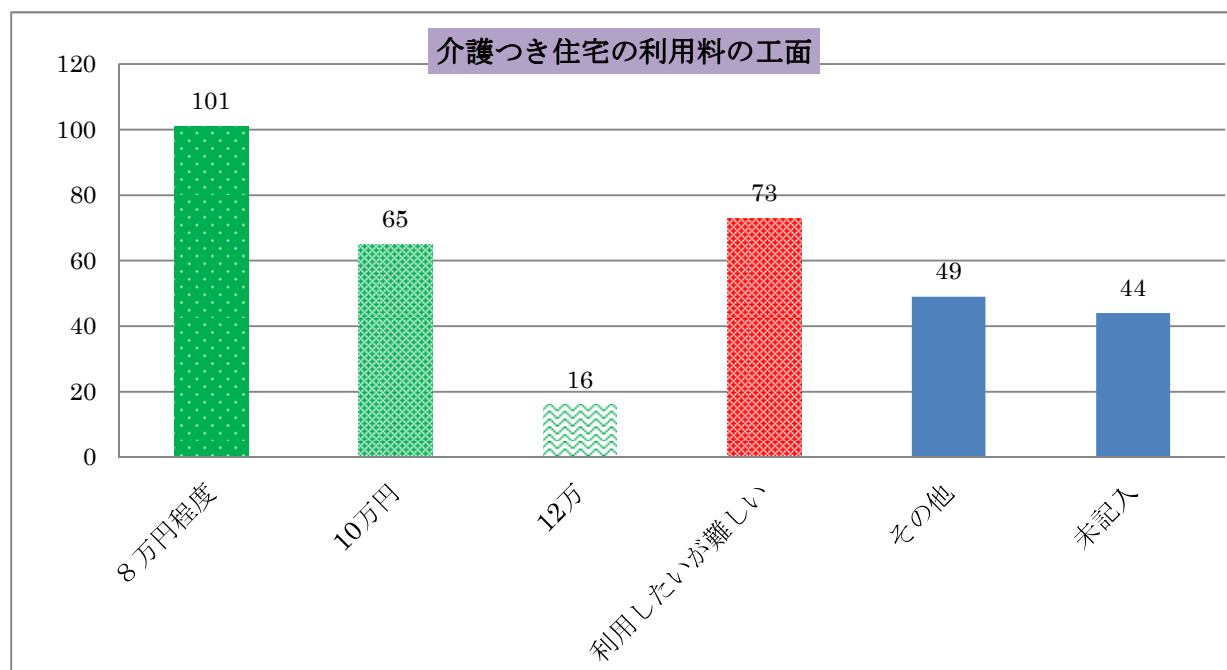
<介護つき住宅の利用について>

・ 利用したいと考えている人は 159 人 (45.7%) * 推計 1,892 人

・ 平均的な利用料(10～12 万円)を工面できる人は 81 人 (23.3%)

利用料が若干不足する 8 万円程度の人と利用したいが難しい人を合わせると、174 人(50%)

半数の人が利用したいと考えているが、費用の工面に課題がある状況。



- 評価
- ア) 今後、支援が必要と思われる独居・高齢夫婦のみの世帯は、増加傾向。
 - イ) 転倒に対して不安に思っていることから、閉じこもり傾向が強い。
 - ウ) 誰かと共に会食をする機会が少なく、外出の機会も少なく物忘れ傾向がおおい。
 - エ) 地域の活動（趣味・サロンには、参加率も少なく、お世話もしたくない傾向）
 - オ) これ等より、要介護状態になるリスクが高く、介護予防の必要性大

②～④の課題の【対策】

◎新たな生活支援サービスの基盤整備

- ・ 買い物 : 訪問販売・生協・生活支援ボランティア紹介
- ・ 掃除・洗濯・ゴミ出し: 生活支援ボランティア（有償 200 円）の紹介
- ・ 外出支援: コミュニティバスの効果的通路

◎介護予防・とじこもり予防の居場所（サロン）づくり

- ・ 地域サロンの担い手不足: 介護予防サポーターによる立ち上げ・継続支援
- ・ サロンに行けない方: 送迎付き介護予防教室（2ヶ所）の紹介

◎多様なサービスの検討

- ・ 買い物ツアー・除雪・弁当宅配・孤食予防食堂
（生活支援ボランティア・協議体・生活支援コーディネーターと協議）